

心臓血管外科

《概要》

近年、循環器疾患の治療を要する患者様は、高齢化、他疾患の併存などにより、ますますハイリスクとなっています。こういった患者様に質の高い医療を提供するには、患者様、かかりつけの先生方(病診・病病連携)、専門施設が協力し、地域に根ざした診療を行っていくことが大切であると考えております。心臓血管外科は、循環器内科、その他の部門との協同により、泉州地域の心臓病診療の中核的な役割を担う「心臓センター」を運営しています。心臓センターは24時間体制で診療を行っており、あらゆる循環器急性疾患にも対応しています。また、隣接する「泉州救命救急センター」と連携し、高度救急医療における循環器疾患の治療も行っています。心臓血管外科では、麻酔科、中央手術室、中央臨床工学室の充実した体制により、急性大動脈解離や大動脈瘤破裂、心筋梗塞合併症(心室中隔穿孔、心破裂、乳頭筋断裂など)に対する緊急手術が随時行えるようになっていきます。術後はICU/CCU及び心臓専門病棟にて一連の術後管理を行い、心臓リハビリテーションプログラムにより早期のADL改善を支援しています。

薬剤溶出性冠動脈ステントの登場により、虚血性心疾患に対するカテーテル治療の成績は一層向上し、加えて薬物治療による内科的治療の多くのエビデンスが報告されるようになりました。近年、心臓手術の中心であった冠動脈バイパス手術は減少傾向にあります。これに対し、動脈硬化性大動脈弁狭窄症や変性性僧帽弁閉鎖不全症を中心とした弁膜症、大動脈瘤に対する外科治療が増加傾向にあります。僧帽弁修復術や大動脈瘤に対するカテーテル治療など、質が高く、お体に優しい治療が求められるようになっていきます。心臓血管外科では、より質の高い外科治療を目標とし、地域に貢献できるよう努力しております。また、大阪大学心臓血管外科と連携し、心筋症などの重症心不全に対する治療(補助心臓、心臓移植、再生医療)、カテーテルによる弁膜症治療など高度な治療にも対応しています。

《診療実績》 2011年1月1日～12月31日

過去3年間の心臓・胸部大血管手術は278例、総手術数は522例でした。心臓・胸部大血管手術の疾患別には虚血性心疾患24%、弁膜症43%、大動脈疾患32%、その他1%で(2010～2011年)、全国的な傾向と同様に、弁膜症、大動脈疾患の割合が増加しております。

大阪大学心臓血管外科と連携し、2010年9月より大動脈カテーテル治療(ステントグラフト治療)を導入しました。2011年10月には、専門医である吉田卓矢医師が大阪大学より大動脈外科主任として赴任し、診療体制がより充実しました。2011年末までに、計36例(胸部10例、腹部26例)の治療を施行しました。

また、NICUの要請を受け、大阪大学心臓血管外科小児チームと連携し、低出生体重児の動脈管開存症に対する外科治療を2例行いました。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
総手術数	185	201	189	169	164
心臓手術数	78	105	96	108	74

《業績》

(1) 学会研究会報告

番号 整理	演 題	発 表 者	学会・研究会名	年 月 日
1	大動脈治療の最前線 ～手術からカテーテル治療まで	松江 一	第135回臨床集談会(大阪)	2011.5.26
2	ここまですすんだ心臓病治療 ～心臓センター最新の取り組み～	松江 一	市民健康講座(大阪)	2011.6.25
3	感染性心内膜炎による急性僧房弁閉鎖不全症に対して Flip-over 法による僧房弁形成術を行った一例	北原睦識	第54回関西胸部外科学会学術集会(香川)	2011.7.1
4	「心臓病」と上手に付き合う ～心臓病の標準治療から最新・未来の治療まで～	松江 一	第35回野村証券ヘルスセミナー(大阪)	2011